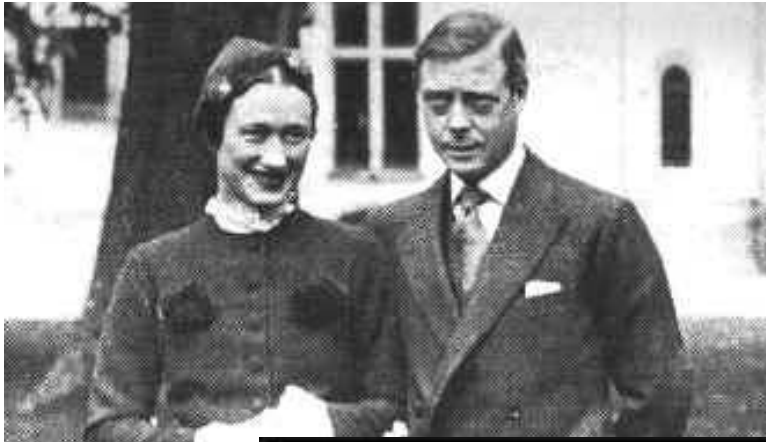


離婚の思想文化史：
絆をほどいて：
第十二回

20世紀と大量離婚の勃興



- English King Edward VIII, 1894-1972, (King from Jan to Dec 11 1936), abdicated to marry Wallis Simpson, a twice divorced commoner. He was then given the title of Duke of Windsor.



離婚の一般化

- ◎ 離婚への寛容度が高まる→プラスイメージ
 - 中産階級から庶民にまで広がる
 - 1960年代から急激な上昇

二つの大戦＋経済恐慌＋法改定

戦争後に離婚件数が急上昇する原因

- ◎ 早急な結婚（戦争花嫁）
- ◎ 別離の影響：経験が別人を産み、利己的にする
- ◎ 不倫をもたらず状況→梅毒
- ◎ 戦時中の不和が戦後に離婚となる
- ◎ 過去の清算、未来の展望

社会トレンド(1): イングランド

◎ 男女同権の不倫事由 (1923年)

→ 女性による離婚訴訟

- 部分的修正はガス抜き  二重基準は当然

↑

1870年代の女性所有権法

◎ 離婚事由の拡大 (明瞭な独立事由となる)

- 三年遺棄、残虐、精神異常
- 三年以内の離婚請求不可

保守からの反対

- ◎ 離婚事由明瞭化は偽装離婚を産む

- ホテル離婚

- ◎ 国民国家の墮落

- Edward III= Wallis Simpson (1936)
- 王家は帝国の美德の権化、英国の体面

「カナダは大英帝国中でももっとも清廉潔白であり、私生活においてはビクトリア女王の規範をととても大事にしている。...カナダの誇りは、無駄口をたたきアメリカのメディアに深く傷つけられ、その傲慢を耐え難く感じている」

社会トレンド(2)：

◎ イングランド

- 熟年離婚の増加
- 遺棄を事由とする離婚増加
- 不倫の妻を離婚させてやる風潮

◎ スコットランド

- アル中が含まれる（1903）

◎ カナダ

- 世俗法廷で、不倫の場合のみ離婚可能（1930）

◎ ニューージーランド

- DV離婚(1920)

社会トレンド(3)：アメリカ

- ◎ 州間の離婚自由化競争
 - 法定費用、居住費目当て
- ◎ アメリカ全土
 - 300万件(1926-40)
- ◎ フランス
 - マスコミ報道の禁止（1884）
 - 居住制限条項なし
- ◎ メキシコ
 - 性格不一致OK Chihuahua（1930）

世界の二極化

◎ ソビエト連邦(1917)

- 中絶の合法化と無料化、避妊具の無料化
- 結婚・離婚の世俗管轄
- 法の前における男女平等

「ブルジョワ家庭は、その構成要素が消えれば、当然のことながら消えてしまう。この二つは、資本が消えれば、消えてしまうはずだ」（『共産党宣言』 1848）

「民主制信奉者や社会主義者であるなら、離婚の完全自由を要求するはずだ。なぜならこの自由なくしては、抑圧された性、すなわち女性への余分な重荷を背負うことになるからだ」（『マルクス主義の戯画』 1916）

○ 主義と制度の乱立

- nationalism, patriotism, liberalism, romanticism, socialism, and communism.
- monarchy, aristocracy, democracy, oligarchy, anarchy

講義内容

- ◎ 1. カトリックとプロテスタント
- ◎ 2. 17世紀イングランドとニューイングランド
- ◎ 3. 世俗化、啓蒙主義、フランス革命
- ◎ 4. 近代初期の社会における正式の離婚と非公式の離婚
- ◎ 5. 結婚挫折の意味とその文脈
- ◎ 6. 19世紀：自由主義とその反動
- ◎ 7. 社会問題としての離婚：1850年-1914年
- ◎ 8. 20世紀と大量離婚の勃興
- ◎ 9. 離婚増加をどう説明するか：1870年代-1990年代